

演題名：南太平洋トンガ王国ババウ諸島の小学1年生のう蝕罹患状況

発表者の氏名：○藤瀬多佳子¹⁾、河村康二²⁾、河村サユリ²⁾

所属：1) Prince Wellington Ngu Hospital (JICA シニア海外ボランティア)

2) NGO 南太平洋医療隊

本文：

目的：現在、南太平洋トンガ王国ババウ諸島において、口腔保健向上のために、歯科医師としてボランティア活動中である。南太平洋医療隊は1997年より、トンガ王国の首都があるトンガタブ島およびハーパイ諸島において、継続的に口腔保健活動を実施し、トンガ王国の口腔保健向上に大きく寄与している。長期派遣ボランティアの利点は、現地の人々と生活を共にすることにより、同じ視線でものを見、目標を設定し、方針をうちたて共同して活動を行っていくことができる点にある。活動期間は2007年4月～2009年3月までの2年間の予定である。活動に先立ち、現状を把握する目的で、WHOのフィラリア調査チームと協同しババウ諸島の小学1年生全員の歯科健診を行ったのでここに結果を報告する。

対象および方法：2007年5～6月に、ババウ諸島の小学校32校（離島の11校を含む）の小学1年生全員を対象に、WHOの歯科健診方法に基づいて、口腔内診査を行い、乳歯列、混合歯列の割合、う蝕罹患率、d m f、DMFについて検討を行った。

結果および考察：今回調査を行った小学1年生は407名（平均年齢は5歳7ヶ月）。う蝕罹患率は95%。d m fは8,0,0であった。乳歯列期のものは28%（平均年齢5歳4ヶ月）、混合歯列期は72%（平均年齢5歳8ヶ月）を占めていた。また、混合歯列期の児童の31%に、すでに第一大臼歯のう蝕が認められ、DMFは1,0,0であった。トンガでは、日本より1年早く小学校に進学する。う蝕の原因は、手軽に入手できる輸入嗜好食品（アメ、キャンディー）の乱食、歯磨き習慣が徹底していないことなどが考えられる。トンガ王国全体の歯科医療従事者数は慢性的に不足しており、全人口約11万人に対し歯科医師数は8名（演者を含む）。デンタルセラピスト約20名である。その内、ババウ諸島（人口約1万6千人）唯一の総合病院には、歯科医師2名（演者を含む）、デンタルセラピスト1名が常勤している。病院の運営予算は少なく、歯科材料の供給はほとんどが先進国からの寄付に頼っている。少ない医療従事者数、歯科材料不足、予算不足である一方、患者数は多い。一家族当りのこどもの数も多いため、保護者に手厚いこどものケアは期待できない。サンゴ礁に囲まれている島であるため、飲料水の主体は天水であり、水道水のフッ素化も不可である。この状況を改善するためには、学校巡回による歯磨き指導およびフッ素洗口による歯質の強化が重要であると考えられた。

結論：南太平洋トンガ王国ババウ諸島の小学1年生は、高いう蝕罹患率を示し、実施可能な解決策の立案、実施が急務であることがわかった。

発表者の連絡先（〒、住所、電話、FAX, Email）：

P.O. Box 155, Prince Wellington Ngu Hospital, Vava' u, Kingdom of Tonga, South Pacific Islands

電話：001-010-676-64851

Email：fusse627@gmail.com

（国内連絡先：河村康二、カワムラ歯科医院 048-256-0118）